

授業科目名	都市論		担当教員名	原 一樹		
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
教養教育科目	選択	2	1～4	春・秋学期	(春学期) 水・3	講義
					(秋学期) 火・3	
<b>授業概要</b>						
<p>この講義では、私達がまさにそこで生活を営んでいる「都市」についてあらためて考え、理解を深めます。まず、私達が何気なく生きている都市空間にも、その成立の歴史や、それを分析する様々な視点があることを一般的レベルで理解します。その上で、神戸の歴史を振り返り、「都市」と「観光」との関わりについて、具体的事例を参照しつつ考えていきます。</p>						
<b>到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市の歴史・都市を分析する様々な視点・神戸の歴史・都市観光に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>2. 各テーマについて小グループに分かれ、チームで調査・資料作成・報告する訓練を積む。</li> <li>3. 特定テーマについて文献・資料調査を行い、一定以上の長さのレポート作成ができるようになる。</li> </ol>						
<b>授業方法(展開)</b>						
<p>基本的には講義形式で進めますが、上記の目標に到達する為に、以下の方法を採用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の授業の最後に、授業内容についての質問・意見を収集。(次回の講義にそれらを反映。)</li> <li>2. 各テーマについて、小グループに分かれ調査・資料作成・報告作業を行う。</li> <li>3. セメスターの最後に講義で学んだ内容を踏まえた上で<b>原稿用紙 10 枚以上</b>のレポートを作成すること。</li> </ol>						
<b>関連科目・知識・スキル</b>						
「京阪神の地理歴史」、「グローバルヒストリー」、「観光文化論」、「観光文化施設論」						
<b>成績評価</b>						
受講態度 30%、グループ作業等貢献度 30%、セメスター末レポート 40%						
<b>教科書・参考書など</b>						
特に指定しませんが、授業初回にこの講義の参考文献の一覧表を配布します。						
<b>履修上の注意事項</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で紹介する文献や映像メディアについては、積極的に触れてみてほしいと思います。</li> <li>・講義中の質問・意見は歓迎しますが、他の受講生の妨げとなる行為（私語・携帯電話の使用等）は当然、禁止です。</li> <li>・「人と防災未来センター」（灘区）への学外見学を予定していますので、交通費および入館料（450 円程度）が必要となります。</li> </ul>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

授業の柱とスケジュールはおおよそ以下の通りです。受講生の興味関心や、講師と受講生、また受講生同士の意見のやり取りを踏まえ、授業の進行速度や取り扱う内容には変更が予想されます。

第1回 インTRODクシヨン（講義の狙い・進め方・成績評価等についての説明。受講生の持つ知識の確認。）

第2回～第4回 都市についての一般理論

- \* 都市とは何か
- \* 都市の歴史
- \* 都市に生きるとはどういうことか

第5回～第7回 都市を分析する様々な視点

- \* 都市におけるコミュニティ
- \* 都市計画とまちづくり
- \* 都市と危機管理・・・「人と防災未来センター」（灘区）の見学を行う予定。
- \* 映画・アニメーション表現と都市イメージ

第8回～第10回 神戸の歴史

- \* 近代化以前の神戸
- \* 明治～第二次世界大戦までの神戸
- \* 第二次世界大戦以降の神戸

第11回～第14回 都市と観光

- \* 都市観光とは何か
- \* 都市観光への様々な取り組み
- \* 神戸における都市観光

第15回 全体のまとめ

## 学生への一言

私達は日々、「都市」に生きているのに、それが何であるのか、実はよくわかっていないのではないのでしょうか。歴史的・論理的にこの「都市」という存在を分析できることは、観光関連産業従事者にとって必須の能力であるはずですが、自分が日々暮らしているのは一体どのような場所なのか、そのことと「観光」という現象とはどうつながるのか、といった問いかけに興味を持ちつつ、積極的に受講してもらえればと思います。